放送視聴票 第9回 (bijyutu202517 + bijyutu202518)

■ bijyutu202517 : 映像表現

【映像をアートとして見る】

今回の放送では、映像作家・保山耕一さんの作品『やまとの季節 七十二候 コスモス煌めく』が紹介されました。

一見、自然の美しさを捉えた作品ですが、作者が末期がんを患っているという事実を知ることによって、映像の意味が大きく変わって見えてきます。

花の移ろいや滴る水に、生命のはかなさや作者の思いが重なり、視覚を超えた感情の揺れが伝わってきます。

【映像の力】

映像は「動く写真」として、視覚に訴える芸術表現です。

映像には、音や構成、テンポなど、他の美術表現とは異なる多くの要素があり、見る人の感情を強く揺さぶる力があります。

たとえば、高校生グループが制作したショートドラマでは、登場人物の感情を伝えるためにカメラワークやセリフの見直しを何度も行い、試行錯誤を重ねていました。

【表現の工夫】

映像表現では、照明や編集、音楽などの技術的な工夫と、伝えたいテーマに向けた熱意が重要です。

映像は「やり直し」ができる表現だからこそ、失敗を恐れずに何度も挑戦することができます。

あなたが伝えたい思いを、どのように映像で表現するかを考えてみましょう。

■ bijyutu202518 : 社会とアート

【アートと社会のつながり】

アートは美術館だけのものではなく、地域の畑や空き家、海辺など、あらゆる場所で生まれています。

今回の授業では、「大地の芸術祭 越後妻有アート・トリエンナーレ」や「ヨコハマ・トリエンナーレ」など、地域と共にあるアート・プロジェクトが紹介されました。

これらは、アートを通じて人と人をつなげ、地域を活性化する新しい形の芸術活動です。

【市民参加のアート】

作家と市民が一緒になって作品をつくる「参加型アート」では、表現の主役が一人の作家だけでなく、多くの人々に広がります。

浅井裕介さんは、市民と一緒に描いた作品に「生命力が宿る」と語り、アートの本質を「その場から生まれる力」としています。

誰かと一緒に作ることで、現場から発想することがアートの力となります。

【アートで社会とつながる】

アートは、社会と深く関わる営みです。

社会から受けた影響を作品に昇華させ、逆に作品が社会に影響を与えることもあります。

あなた自身が感じた地域の課題や、大切にしたい想いをアートで伝えるとしたら、どのような形になるでしょうか？